

事業の基礎情報

実施主体	岸和田市スマートモビリティ実証実験実行委員会
事業実施地域	岸和田市 岸の丘町他
共創の種類	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の種類	観光・まちづくり
共創パートナー	岸和田市・南海ウイングバス・南海電気鉄道・先進モビリティ・損保ジャパン 大日本印刷・いずみの農業協同組合
運行形態	観光エリア接続・自動運転バス
運行主体	南海ウイングバス

取組の概要

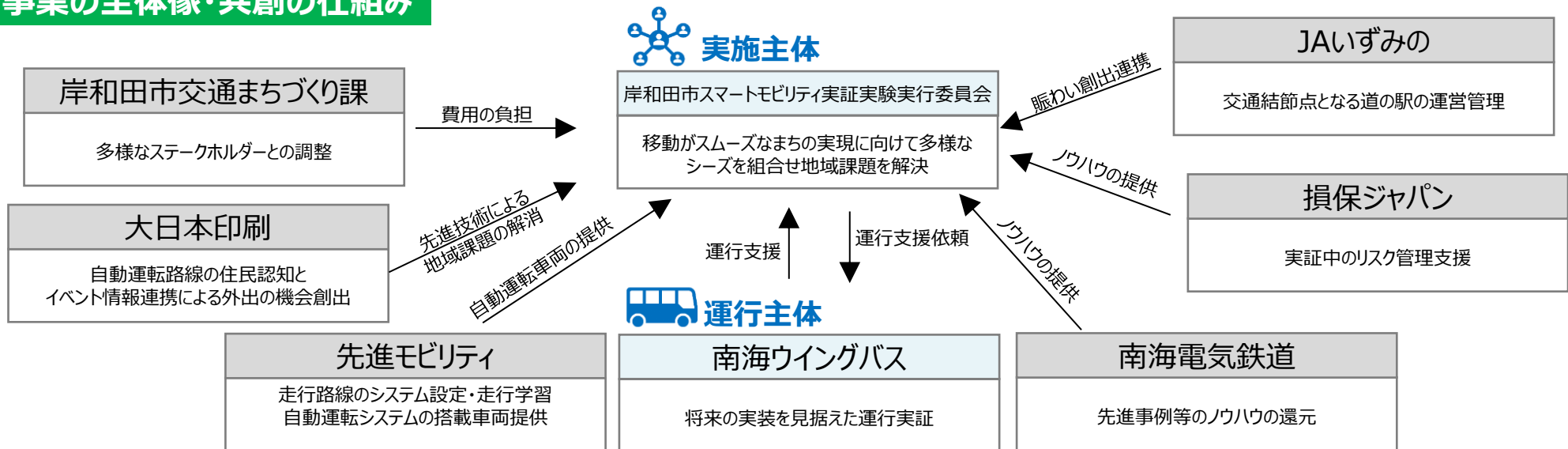
(現状の地域課題と事業目的)

山手地区の人口減少・高齢化が進む中、路線バスの便数をかろうじて確保している状況。中山間エリアとの観光資源を結ぶ路線でもあり、減便の影響は地域経済に及ぶことから、自動運転技術による旅客輸送の維持・持続を計画しつつ、イベント情報と連携することで高齢者の外出機会の創出と山手地区への観光流入を図る。

(事業の概要)

市のスマートシティ構想における交通面での実現を目指し、大阪スマートシティパートナーズフォーラム（大阪府、府内43市町村、企業、大学、シビックテック等が連携して“大阪モデル”のスマートシティの実現に向けた推進体制）と連携し、山手の拠点施設を活用し「移動がスムーズなまち」の実現に向けて、岸和田市スマートモビリティ実証実験実行委員会（令和3年12月設立）が主体となり、自動運転車両の実験運行を実施し、効果測定、社会実装を見据えた運行ルートを選定、スキーム検討や各種調整を行う。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

地域の公共交通を担う交通事業者と市に加え、拠点施設を管理運営するいずみの農業協同組合や全国的な先進技術やIoTを活用した地域課題解決へのノウハウを持つ大日本印刷及び損保ジャパンが参画し連携することで、交通分野の課題解決にとどまらず、移動サービスの充実を通じて、高齢者の外出支援や観光振興といった様々な政策分野（まちづくり、観光振興、健康、福祉、教育、環境等）において波及効果が見込まれる。

(実証事業により見込まれる効果)

事業による山手の拠点施設「道の駅愛彩ランド」を起点とした販わい創出と多様な交通手段の確保及び交通ネットワークの構築により、公共交通の利用困難な地域に居住する、多様な方々の自立した日常生活を支え、高齢者が気軽に外出できるまちの実現により、市内をスムーズに移動できると感じる市民が増えるとともに、本市の公共交通を代表する路線バスの利用者の増加により、将来にわたる公共交通の確保維持が期待される。「市内をスムーズに移動できると感じる市民の割合」R4：36.1%→R8：39.0%（目標値）

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

事業実施手順		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7-
実行委員会	事業計画・事業評価 実績報告													
岸和田市	関係機関協議													
大日本印刷	実証計画・事業者管理 サイネージ機器運営													
南海電気鉄道	バス事業との連携 実証運行の管理													
南海ウイングバス	自動運転車両の運行													
先進モビリティ	自動運転システム設定 自動運転車両調達													
損保ジャパン	実証リスク評価 保険条件設定・提供													
JAいづみの	交通結節点・道の駅の 運営管理													

(補助事業実施後の予定)

乗務員担い手不足など地域公共交通が抱える課題に対応し、将来を見据えた新たな公共交通サービスとなる先進技術、次世代モビリティ等の活用により、自宅から交通の幹となる場所までのファーストワンマイルにおけるパーソナルモビリティ等の普及促進と、交通の幹となる場所から目的地までのラストワンマイルにおける移動サービスを幅広い関係者とともに創り上げることが岸和田市の地域公共交通計画にも位置付けられており、市施策として中長期的な取組に昇華し、国の補助制度活用を含め持続的な取組となると考える。